

+ Viva Kango

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学

第一回公開講座開催

二十一世紀への健康づくり —元氣な日々を求めて—

昨年十月、募集定員六十人を上回る大勢の地域住民(百十人)を迎えて、開学後初の大学公開講座を開催しました。受講生は終始真剣な眼差しで講義に耳を傾け、活発な質疑応答が交わされるなど、全講座を通じて盛会の内に終了しました。

講座へのアンケート調査結果では、期待どおりの反響と共に、次回への熱心な要望も寄せられ、本学が理念として掲げる「地域に開かれた大学」へ向けての、新たな実績を築くことになりました。



第一講

十月十一日(水)

子ども達が抱えているJUNJUNの問題

教授 奥野 晃正



いじめ、不登校、自殺、学級崩壊、十七歳事件など最近の子どもたちの異常な行動の背景について、小児医学の視点から「こころの問題」として捉え、多数の症例を紹介、研究成果をもとに原因を探り、社会問題化している心身症への対応策について提起。

第二講

十月十八日(水)

女性の中年期を生き生きと過ごすために

講師 平山 恵美子



女性の中年期を悩ます更年期障害について、その発生のメカニズムを身体的、社会的背景から説明。身体と精神症状に対する自己チェックを含め、日々の生活改善を通じて、人生の転換期を乗り切り、生き生きと過ごす対処の仕方について指導。

第三講

十月二十五日(水)

生活の中のストレスと心の健康

教授 影山セツ子

ライフサイクルにおけるストレス症状について、発生要因に遡り分析し、過剰なストレスが引き起こす疾患の実

態に触れ、状況に応じた専門医への相談を含め、自らの心の健康管理を通じて、日常生活での上手なストレスとの付き合い方について提唱。



第四講

十一月二日(水)

高齢者が住み続けられる街

助教授 大西 章恵



この地域における急速な高齢化の状況について、統計資料をもとに説明。高齢者の置かれている生活や介護の実態を明らかにし、心の触れ合いの大切さや、真に自分らしく生きたいと願う高齢者の視点に立った地域福祉のあり方について提言。

第五講

十一月八日(水)

人間としての性を生きる

教授 内山 芳子



運命としての身体的性の決定に始まり、二分化しえない性の存在、性区分間としての性を三つの側面(セックス、ジェンダー、セクシャリティ)から考察し、自己の性への正しい認識を培い、充実感に満ちた生き方を提唱。

二十一世紀の光と影

女性や老人、看護に光を

とうとう世紀を越えて二十一世紀の新年を迎えました。何となく例年とは違って、希望や変化を期待する感覚を覚えるのは、世紀を越えたことによるのでしょうか。

未来像は光の当て方でいかようにも描くことができます。いま流行の科学技術に目を向ければ、IT（情報技術）革命、バイオサイエンス（生命科学）、ナノテクノロジー（超微細技術）、宇宙科学などは大いに光が当たるとでしょう。しかし、光を当てれば必ず影もできます。科学技術の発展に伴って、グローバル化、生命観や倫理観の変化、地球環境の悪化など、社会的に再検討を要する課題も持ち上がってきています。

二十一世紀の社会は、これら光と影を承知して対応していくことが課題となるでしょう。



学長 松木光子

希望と不安の新たな世紀ですが、希望と不安があるからこそ課題を克服する力が発揮されます。私は別の機会に、二十一世紀は女性と看護の輝く時代と書きました。二十世紀には光が当たることの少なかった女性や老人、そして看護にも光のさす方向が見え始めています。社会の中にケアのこころが育つと人々は安寧です。そのためにも看護職を目指す者は、変化する社会の中で役割を十分発揮できる實力を身につけることが大切です。本学の教育研究がその一助を担えれば幸いです。



2年 渡辺 絹代

一月に成人式を終え、晴れて大人の仲間入りを果たしました。とは言っても、まだ周りの人達に迷惑をかけてばかりなので、これからは自分の言動に責任を持ち、周りにも気を配れるような大人になりたいです。

二十一世紀は、色々な所に旅行に行き、色々なものを見たり体験したりしたいです。残り二年の大学生生活も勉強や部活動などを思いきり楽しんで、将来は、保健婦として地域の人々と関わってほしいなと思います。



2年 阿部 華枝

輝かしい二十一世紀の幕開けを私は成人という人生の大きな節目と共に迎えました。この新しい時代を担っていくのは私達世代の大きな役割といえます。社会では高齢化が進み、医療へのニーズも更に大きなものとなるでしょう。看護を学ぶ身として、強い意志と勇氣を持って新世紀へ臨む姿勢が求められていると思います。今年は大学生活折り返しの年でもあり、気持ちを新たに新世紀への第一歩

を力強く歩み出したいと決意しています。



1年 小野寺 渉

二十一世紀は、超高齢社会の到来を始めとする諸問題によってますます医療のニーズが高まることが予想されます。従って、看護学生としての自覚を更に強く持ち、医療に対してこれまで以上に深い関心を持ち続けた

私たちの21世紀の抱負

大学に入学してからもうすぐ一年がたちます。一年間勉強してきて、看護婦には何が大切か、どのように援助したら良いのかなどいろいろなることを学びましたが、今の私にはまだまだとても勉強が足りないように思えます。今年は二十歳になるということで、学習面だけではなく、生活面や心理面でも成長でき、夢へまた一歩近づけるように努力を惜しまず、充実した年にしたいです。

いと思っています。また、これから始まる実習や講義に対しても全力でぶつかっていきたくて考えています。



1年 山田 理沙



バレーボール部

私達のバレー部は、みんなで和気あいあいと活動しています。

部長 白井 啓子



バレーボール部

基礎看護学 実習を終えて

実体験で学ぶ
「看護」の意味

2年 寺田 和美

私たちは平成十二年九月下旬に、学内演習と病院実習の計十日間に及ぶ基礎看護学実習Ⅱを終えた。二回目の実習ということもあって、



基礎看護学実習Ⅰの反省と今回の期待と緊張感でい

っぱいだった。

今回の実習で一年半に及んで学んできた「看護とは？」ということとを少しながらも肌で感じてきた大切なことは、クライアントと積極的に関わり、クライアントの状態や性格などを把握し、その状態に合わせて判断し、一方的な押し付けではなくクライアントと共に進めていくことだと感じた。この気持ちや体験を忘れずに大切にしていきたい。

個別性を理解する ケアの大切さ

2年 菅原 圭純

二度目の実習で受け持った患者さんは、右眼が失明・左眼は術後のためにガーゼで覆われ、両眼が見えていなかった。挨拶をしても、



ケアする時も顔は見てもらえず、目を見て話したくて

も目が合うことはなかった。そんな状態がずっと悲しかった。ある時、オリンピックの話が出た。患者さんは見えていないはずなのに、見ていたかのように語るのがある。私は「見る」という言葉を意識してしまい、スムーズに話せなくなった。しかし、日が経つにつれ、患者さんは、耳から入ってくる情報を今までの経験と合わせて、心の目でその光景を捉え語っていたことがわかった。私にとって実習は、患者さんの個別性を理解しその人に見合うケアを考えるための貴重な機会となつた。

基礎科学講座

シリーズ②
講座紹介

その2



前列左から：佐久間教授・奥野教授・中岡教授
カーティン教授・山本講師

■奥野晃正教授

小児科医です。研究のテーマは「思春期の内分泌環境」と「成長発達」です。最近の仕事としては、小児心身症の実態調査、母子健康手帳に掲載されている身長体重曲線の作成などがあります。疲れたときには、紙飛行機を作って飛ばしたり、帆船模型を作ったりしています。無心になって指先を動かすのは、大変良い気分転換です。

■佐久間まこと教授

昨年の5月から本学に勤務しています。現在、疾病論ⅠaとⅠbを担当しています。もともとの専門は外科、なかでも血管外科と救急医学ですが、あたらしい研究テーマとして生体情報処理にも興味をもっています。趣味は音楽鑑賞や機械いじり、野外散策、旅行、釣り、温泉めぐりなどなど…。学生時代は何にでも興味をもち、有意義な時間を過ごされるようがんばってください。

■中岡良司教授

専門が都市計画や交通計画なので、高齢者や障害者が住みやすい街づくりをめざして、高齢者公園の計画や福祉マップづくり、移送サービスに関する研究を進めています。「新製品」という言葉が好きで、研究室には古いパソコンや情報機器がゴロゴロしています。3児のパパなので、学生には優しいと評判です（と思っているだけ）。

■J・ショーン・カーティン教授

現在「社会と教育現場における男女平等の変遷」について研究を進めており、主に以下の三項目に焦点を当てています。(1)「家族」に対する社会や人々の意識の変化、(2)女子高等教育に見られる新しいトレンド、(3)言語教育におけるジェンダーの役割。休日には山登りやジョギング、温泉巡りをしたり外国文化を味わっています。

■山本憲志講師

「無酸素性パワーと筋組織厚に関する研究」、「人工炭酸泉浴が循環器に与える効果」、「看護業務と体力に関する研究」を主に進めています。また、学生と一緒に剣道の稽古も日々行っています。近隣の高校運動部の科学的支援を行い、今年は上位進出を期待しています。趣味はスキーですが最近はなかなか行けません。スポーツは人間を拡大させて見せてくれるのでその躍動感にいつも感動しています。

ソフトボール部

ソフト部は初心者が多い部活です。やる気のある人は大歓迎です。

部長 松坂 怜奈

演劇部

五月に公演予定！演出に田村正和さん（舞台芸術工房・森の会）を迎えて只今猛練習中！

部長 上谷 健二

医療を考える会

医療に関する事柄の中からみんなでテーマを決めて、自由に活動しています。

部長 山田みどり

無線部

アマチュア無線は、天災によるライフライン寸断時や災害救助、山岳遭難時の連絡手段として必須な国家資格です。

部長 伊東健太郎



演劇部

入試情報

大学の平成十三年度の入学試験が、昨年の十一月十九日に推薦入試、今年二月三日（三カ所で行われ、三百三名（倍率五・五倍）の受験生が、英語・小論文そして選択科目（数学・化学・生物）の中から一科目、計三科目の受験科目に挑みました。合格発表は、二月七日に、本学の学生玄関ロビーに合格者七十七名の受験番号を掲示しました。

昨年十一月十九日に実施致しました推薦入学試験は、定員百名の内の推薦枠をこれまでの三十名から四十五名に広げて、本学を会場にして受験生七十二名が小論文と面接を受け四十八



入試を実施しそれぞれ合格発表をしました。

奨学金貸与状況

平成13年2月8日現在、各種奨学金団体等からの奨学金の貸与決定状況は次表のとおりです。

名称	貸与金額	人数			
		1年生	2年生		
日本赤十字社北海道支部奨学金	年額120万円	10名	22名		
総合病院北見赤十字病院修学資金	年額60万円	27名	15名		
日本赤十字社看護婦同方会奨学金	月額2万円		1名		
北海道看護協会奨学金	月額2万円		2名		
北海道看護職員養成修学資金	月額3.5万円	1名	1名		
地方公共団体(市町村)の奨学金	各市町村により金額異なる	3名	1名		
北海道厚生連奨学金	月額4万円		1名		
内外学生センターたくぎん奨学金	月額3万円		1名		
小笠原アカデミー奨学財団奨学金	月額2.5万円	2名			
日本育英会奨学金	第一種(無利子)自宅通学者	月額5万円	2名	4名	
	自宅外通学者	月額6万円	5名	6名	
	きぼう21プラン(有利子)		月額3万円	3名	3名
			月額5万円	14名	10名
			月額8万円	8名	4名
			月額10万円	12名	5名
合計		87名	76名		

前期行事予定

- 4月 5日 入学式
- 4月 6日 新生入生・在学生ガイダンス
- 4月 9日 前期授業開始
前期履修登録
(~同20日)
- 5月 1日 日本赤十字社創立記念日
- 5月 2日 臨時休業
- 6月30日 大学祭(~7月1日)
- 7月19日 前期授業終了
(2年生は同24日)
- 7月23日 夏季休業
1年 7月23日~9月14日
2年 8月 1日~9月14日
3年 7月23日~9月 7日
- 7月25日 2年生前期定期試験
(~同31日)
- 9月17日 3年生前期定期試験
(~同21日)
- 9月25日 1年生前期定期試験
(~同28日)

オープンキャンパスの開催

昨年の八月三日(木)午後一時から本学を会場にして、平成十二年度オープンキャンパスを開催しました。

当日は、高校三年生六十九名を中心として百二十名が参加し、本学の教育理念や十三年度入試の説明やグループに分かれて、施設案内そして最後に個別質問コーナーで入試に関する事等の質問を受けました。

図書館リーフレット発行

図書館では、昨年の十月にPR用のリーフレットを作製しました。リーフレットは、A4判三つ折の規格で、施設の概要や利用案内等をコンパクトにまとめ、表紙には道展会員田中稔様から本学に寄

贈のありました「レントゲン室」の絵画を掲載しております。



教員人事

平成十二年四月一日以降の教員人事は、次のとおりです。

- 【退職】平成十二年四月三十日付
●基礎看護学講座
助手 山口 佳子
- 【採用】平成十二年五月一日付
●基礎科学講座
教授 佐久間 まこと
- 【採用】平成十二年十月一日付
●基礎科学講座
教授 奥野 晃正

編集後記

★二十一世紀最初の学内誌をお届けします。特集では、学長をはじめ学生に二十一世紀の抱負を語っていただきました。

★今年度、五つのクラブが新設され全学で十六団体となりました。忙しい授業の合間をぬって、学生は青春を謳歌しています。

★今冬の北見は、例年になく多雪寒冷です。本州から来た学生が、犬が素足でかわいそうと言っておりました。大丈夫、北海道の犬は寒冷地仕様になっています。ともあれ春が待ち遠しい日々です。

★現在、広報委員会では本誌をはじめ大学パンフレットの編集を行っています。次年度からは大学紹介ビデオの編集も担当することになりました。ぜひ様々なご意見やアイデアをお寄せください。

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第4号

発行日/2001年2月8日

編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
Tel.0157-66-3311 Fax.0157-61-3125
mail to:kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp